

『GUNTM 国際シンポジウム in 京都』開催報告

The report of GUNTM International Symposium 2013 in Kyoto

角谷英治, 石崎直人, 江川雅人, 今井賢治, 岩 昌宏, 福田文彦

2013年11月16・17日の両日, ホテル京都エミナースにおいて GUNTM International Symposium 2013 in Kyoto が, 『東アジアにおける伝統医学の予防と治療の有効性』という大会テーマで開催されました(写真1).

GUNTM (Global University Network of Traditional Medicine) とは, 慶熙大学 (韓国), 香港浸會大学 (香港), 中国医薬大学 (台湾), RMIT (オーストラリア), 広州中医薬大学 (中華人民共和国), 北京中医薬大学 (中華人民共和国), 明治国際医療大学 (日本) のアジア・オーストラリア圏の7つの大学が中心となって, 伝統医療の普及・発展と国際的な学術交流を目的として, 発足した会です. 毎年, 各大学が持ち回りでホスト校となって, テーマを決めて学術会議を開催していますが, 今年は第5回目を数え, 明治国際医療大学がホスト校となり, 京都の地において開催され, 皆様のご協力の下, 成功裏の内に幕を閉じることができました.

これまでの GUNTM は加盟校の関係者が中心の会議でしたが, 今回は, 一般参加も加えて, よりオープンな形での開催を計画し, 慶熙大学, 香港浸會大学, 中国医薬大学, RMIT, 明治国際医療大学の5

大学からの代表者を中心としたシンポジウムと, 一般のポスター発表を含めた国際シンポジウムとして開催しました. 当日は国内外より 184名の参加がありました.

本稿ではその内容の簡単な報告をさせていただきます.

1. シンポジウム

本大会のメインであるシンポジウムは GUNTM 加盟校の先生方をシンポジストに迎え, アニバーサリーホールにて, 以下の3つのテーマで開催されました(写真2, 3).

(1) 各国における伝統医学の教育と資格システム (16日午後)

本学からは石崎教授が日本の鍼灸資格制度と教育を紹介し, 鍼灸治療の利用状況についての全国調査の結果を発表しました. Namil Kim 教授 (韓国) は6年制の学部教育と修士, 博士の課程が確立されている韓国の鍼灸の制度や1987年に公的保険が認められたことなどについて紹介しました. Shung-Te Kao 教授 (台湾) は台湾で中医学を教育している5大学の状況や7年間で中醫師と西洋医の両方の資格が得られるコースについて紹介しました.



写真1 シンポジウム会場入り口 (ホテル京都エミナース)



写真2 シンポジウム会場の様子1 (アニバーサリーホール)



写真3 シンポジウム会場の様子2 (アニバーサリーホール)

Charlie Xue 教授 (オーストラリア) は、オーストラリアにおける中医学を含めた伝統医学の利用状況について紹介しました。

(2) 各大学で実践されている鍼灸テクニック (17日午前)

各国で行われている鍼灸治療を中心とした独自の伝統医療のテクニックを、ビデオコンテンツを用いて紹介していただきました。まず、本学の井上准教授が神経根症状や馬尾症状に対するX線透視下で行う神経根鍼通電療法などに関して紹介を行いました。Sanghoon Lee 教授 (韓国) は美容鍼灸を中心に、穴位注射療法、埋没糸療法、自動マイクロ鍼療法などの独特な治療法を紹介しました。Sheng-Feng Hsu 教授 (台湾) は顔面神経麻痺や脊髄損傷、あるいは脳卒中などの麻痺性疾患に対する鍼通電療法、耳鍼、頭鍼、吸角療法、灸頭鍼療法、カッサ (guasa) 療法などを紹介しました。各国の独特な治療法が紹介され、興味深い内容でした。

(3) 東アジアにおける伝統医学の予防と治療の有効性 (17日午後)

本学の和辻准教授は人間ドック利用者における東洋医学の健康評価の有用性について説明し、ドック利用者への円皮鍼と養生指導の併用効果について紹介していました。Aiping Lu 教授 (香港) は、非ランダム化あるいはランダム化臨床試験での関節リウマチの治療における中医生薬の効果を解説しました。Seong-Gyu Ko 教授 (韓国) はランダム化臨床試験での血瘀に起因する月経困難症に対する桂枝茯苓丸の効果と安全性について紹介しました。Tony Zhang 教授 (オーストラリア) はランダム化比較試験による耳鍼治療の禁煙効果について報告しました。Zhangzhen Zhao 教授 (香港) は生薬の品質管理を中心に、中医薬の現状と研究の進歩について



写真4 ポスター発表の会場の様子 (明治洛西キャンパス)

発表しました。

いずれのシンポジウムとも会場は盛況で、複数の質問が会場から寄せられました。

II. 一般発表

今回の GUNTM では一般公募の演題発表をポスター展示の形式で行いました。この企画はこれまでの GUNTM のシンポジウムで初めての試みでした。ポスター展示は16日午後・17日全日に「明治洛西キャンパス」を会場として行われ、会期中はいつでもポスターを見ることができました。演題数は全69題で国内60題、海外9題と多くのエントリーをいただき、本学の看護学部からの演題もありました。発表については、口頭発表は特には行わず、17日の12時から13時の間をフリーディスカッションの時間にしました。会場内には軽食とドリンクも用意され、堅苦しくない雰囲気、活発な議論がされていました (写真4)。

III. オフィシャルミーティング

11月16日 (土) 9時から「銀閣の間」に GUNTM 加盟各大学の代表者が集まり、オフィシャルミーティングが行われました。そこでは「GUNTM 国際シンポジウム in 京都 2013」の内容および全日程の確認と「次回 GUNTM ミーティングのホストについて」、「今後の活動について」等が話し合われました (写真5)。

IV. 学生交流会

17日13時から14時の間、各国の先生方に参加者に加わっていただき「松の間」で行われました。明治国際医療大学の中川貴久美さんが日本の鍼灸治



写真5 オフィシャルミーティングの様子（銀閣の間）



写真6 学生交流会の様子（松の間）

療と明治国際医療大学の紹介のプレゼンテーションを行いました。その後、日本の鍼灸療法と諸外国の鍼灸療法についての意見交換を行いました。会場には溢れんばかりの参加者があり、有意義な交流会でした（写真6）。

V. 懇親会

16日18時から、「平安の間」で懇親会が開催されました。約60名が参加し、美味しい料理を食べながら、伝統医学の話をし、国内外の方々と懇親を深めました（写真7）。

VI. 所感

今回の国際シンポジウムは、約1年前から、鍼灸学系の教員が中心となって会議を繰り返し、計画、企画を進めて参りました。その間、他学部の先生方や事務の方々のご協力もあり、大きな混乱もなくシ



写真7 懇親会の様子（平安の間）



写真8 シンポジスと全実行委員の集合写真

ンポジウムを終えることができました。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。

一般参加を加えた形で開催されて今回のシンポジウムは、外国の伝統医療に触れることが決して多いとはいえない我々日本の鍼灸師にとって、日本の鍼灸医療を見つめ直す非常に良い機会となったと思います。実技供覧が動画でしかできなかったことが残念でしたが、「アジア、オセアニアの伝統医療の普及・発展、国際的な学术交流」の目的は果たすことができました。日本と諸外国の鍼灸医療の制度の違いも改めて認識することができ、その違いが国内における普及、発展に大きく関係していることが分かりました。GUNTM加盟国の伝統医療に対する、国を挙げての前向きな姿勢がうらやましく思えます。他国と比較して改めて感じた日本の伝統医学における課題を一日でも早く解決しなければとの思いが強くなりました。

今後のGUNTMは、加盟大学を追加しながら、多施設共同研究などを含めた大学間の交流を深める方向に進むと思います。本学からもGUNTMを通じ世界へ向けて伝統医学の普及、発展を提言、発信してゆくべきであると思っています。